

男性教職員の育児休業取得体験談

～男女ともに育児休業等を取得することが当たり前の社会を目指して～

1 育児期の働き方を支えるために

～安心して相談できる環境づくり～

育児・介護休業法では、本人またはその配偶者が妊娠し、出産したこと等を申し出た職員に対し、育児休業制度の情報提供等を行うほか、育児期の柔軟な働き方を実現するための措置を講ずることが義務付けられています。また、妊娠・出産等の申出時と、子が3歳になる前には、個別に意向聴取を行う必要があります。

高知県教育委員会では、県立学校の教職員に対し、「育児に関する休暇取得支援プログラム」及び「子育てサポート面談シート」を適切に活用することで、情報提供や意向聴取を確実に実施できる仕組みづくりをしています。

あわせて、人事評価制度にかかる目標設定面談等も活用し、男女ともに仕事と育児を両立するために必要な制度が利用ができるようにしてください。



2 育児休業取得者の業務をカバーした職員に対する勤勉手当に係る成績率の加算について

令和7年6月期の勤勉手当（令和6年12月2日以降の期間）から、育児休業を取得しやすい職場環境を整備するため、職員の育児休業等（産前・産後休暇含む）の取得に伴い、その業務をカバーして従事した職員に対して、実績に応じて勤勉手当の成績率が加算されるようになりました。複数人でカバーした場合は、業務量の多寡に応じて加算割合が配分されます。

令和7年6月期 勤勉手当(令和6年12月2日以降の期間)から適用

育児休業等を取得しやすい職場環境整備のための勤勉手当の成績率加算の仕組み



制度の目的と効果



育児休業取得の促進:
職員が安心して育児休業
を取得できる



職場全体の負担軽減と協力:
周囲の職員の貢献を
適切に評価



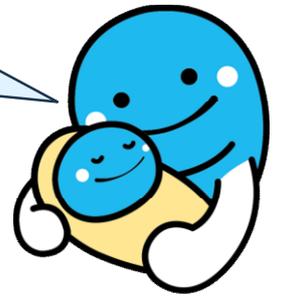
働きやすい職場づくり:
男女ともに仕事と育児を
両立できる環境

(詳細は、令和7年5月20日付け7高教福第296号をご参照ください。)

※本図は生成AIを活用して作成した、制度の概要を示すイメージです。

育児休業の取得を迷っている方の背中を押し、サポートできるように、育児休業を取得された男性教職員の体験談を紹介しています。

今回は、令和6年度に育児休業を取得した男性教職員うち11名の方の体験談をご紹介します。（体験談のご提供、ありがとうございました！）



■育児休業を取得しようと思ったきっかけや育児休業を取得するために準備したこと、取り組んだこと、苦労したことは？周囲の反応や周囲に感謝したことは？

長女の妊娠が分かった時から、1歳半離れた長男と生まれた長女の2人の成長をそばで見たいと考えていました。出産の時期も行事や学期末と重なり、職場にご負担をおかけすることが多かったのですが、お祝いをしてくださったり、時間を融通してくださったりと育休のスタートまでも心強かったです。

育休のスタートにおいても、同じ教科の講師の先生を配置していただいただけ、引継ぎもスムーズに行うことができました。この育休のために、非常に多くの方からご配慮やご協力をいただいたと実感しています。

同世代に育児休業を取得した方もいましたので、子供が生まれたら、育児休業を取得したいと思っていました。

異動後すぐの取得となってしまう、休業中も職場に足を運ぶ必要があり大変でしたが、管理職をはじめ、職場の方々には、休業前や休業中も本当によくしていただき感謝しています。

3人目の出産を控え、妻の負担を少しでも減らしたいと思い、育休を決意しました。職場に相談すると、管理職の先生方や同僚の方々に快く送り出していただいたことにとっても感謝しています。

育休中は、上の2人の子どもの世話と家事・夕飯作りに追われ、想像以上に大変でしたが、家族のために奮闘した時間は今も心に残っています。

2人目の子どもまでは、約1週間育児休業をいただいておりますが、妻の負担軽減や子どもの成長をもっと近くで感じたいと思い、今回約1か月間取得しました。

取得するにあたっては、早めに管理職の先生方に相談し、できるだけ職場の先生方のご迷惑・ご負担にならないようにしました。約1か月間という長い期間、育児休業を取得させていただいた校長先生を始め、授業や学級を通常通り行って下さった同僚の先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

育児休業を取得したきっかけは、私の両親が県外、妻の両親も郡外におり、夫婦で子育てをじっくりとできるようにする必要があったことや、自分自身、育児にも慣れるためにも育児休業を取得し、復帰後もワークライフバランスの両立を図れるように考え、取得しました。

職場の先生方にはご迷惑がかかるため、不安に感じる部分もありましたが、逆に育児頑張るねと声もかけていただき、安心しました。

自分が育児休業を取得しようか悩んでいるときに、妻が妊娠したことを同じ学年の先生方に伝えたところ、「どのくらい育休取るの？」と育休を取る前提で話をしてくださったことで、育休を取ることに對して前向きな気持ちになりました。

また、どの先生方も肯定的な反応で、「子育て楽しんでね」と声を掛けてくださったこともうれしかったです。



予定日より3か月早く極低出生体重児として次男が誕生しました。1回目の育休はNICUから退院してきてから1か月間（2学期末考査後～年始）取得しました。自分が県外出身、妻の両親も現役で働き（実家まで1時間半）、極低出生体重児ということで通院回数が多い等の状況が重なり、2回目の育休を取得しました。1回目の育休は3学期に現場復帰しましたが、長男の幼稚園への送迎や次男の通院等で中途半端に仕事を終わらせてしまうことが多くなり、職場にも迷惑が掛かると思い、9か月という長期で育休を取得しました（長期で取得した方が現場に自分の代わりの期限付き講師が配属され育児に専念できる等メリットが多いと感じました）。

第1子の時には育休は取得しなかったのですが、2人目を授かれたら育休を取得したいと考えていたからです。取得するにあたってはやはり仕事に迷惑をかけてしまうということがあり、取得しようかと迷っていましたが、管理職の先生に相談した時に背中を押してもらって取得しようと思いました。

取得にあたっては臨時講師が来てくれることになったので、スムーズに引き継いでもらえるように資料などを作成しました。取得しやすい環境を作ってくれた管理職の先生や同僚の先生方に感謝しています。

出産後、妻1人に負担をかけたくなかったことと、家族の時間を作りたいことがきっかけです。また、国や県で男性の育児休業を推奨しているのを知っていたので、夫婦で取ろうと以前から話をしていました。

育児休業の相談を管理職にした際、「職場のことは気にせず、奥さんと子供のために取ってあげて」と言っていたことに感謝しています。また、快く送り出してくれた周りの教職員の方にも感謝しています。

育児休業を取得しようと思ったきっかけは、妻が県外出身ということもあり、妻の育児への負担を少しでも軽減したいと思ったからです。

育児休業を取るために準備したことは、担任業務や校務分掌の引継ぎを計画的にしました。また、半年以上前から管理職の先生に育児休業を取りたい旨を伝えていました。その際に、私が休むことに対して快く背中を押してもらったことに感謝しております。

同僚の先生が、子どもが生まれたと同時期に育児休業を取ったことを知り、子どもが生まれてから取得しようと思いました。

育児休業取得にあたり、家事等での役割の確認、家庭でのルールの再確認、お金の管理、必要な物品の準備、残務整理、自身が不在の時の動き、復帰後の動き、担当学級の保護者へのお知らせ、役所や病院との手続き等の準備を行いました。私たち夫婦の両親や親戚が応援してくれたり、職場の方々が快く送り出してくれたりしたことに感謝しています。



■ 育児休業を取得したからこそできた経験、取得して良かったと思うこと、これから育児期をおかえる教職員に対してのメッセージ

赤ちゃんの小さな手に触れ、泣き声に耳を傾け、家族5人で食卓を囲む—そんな日々の中で、家族と過ごす時間の尊さに気づきました。育休がなければ見過ごしていたかもしれない日常を見ることができ、非常に心が動かされました。

育児は大変ですが、その分深い喜びがあります。迷っている方は、ぜひ勇気を出して育休を取ってください。

育児休業が取得できたことで、生まれてきた子どもの生活リズム・成長を見届けられる喜びはもちろんのこと、この期間で1番良かったなど感じたことは上の子どもたちの幼稚園や保育園の送迎ができたことです。

普段はなかなかできないことで、園での様子を直接聞く機会となり、こんなこともできるようになったんだと感じることができました。

子供は1日にびっくりするほど成長します。できなかったことがどんどんできるようになることの喜びを、妻と子と一緒に感じる事ができたのは何にもかえがたい経験になりました。また、私は子どもにとって母親と過ごす時間が一番大切だと思っています。育児休業を取ることで、その大切な時間を増やすことができたかなと思っています。

正直、育児は大変なことも多くありますが、子どもと接する教職員として、育児の大変さを体感できたことは、よかったと思っています。

初めて手を発見しじっと手を眺める姿、首がすわっていないときに顔を一生懸命上げようとする姿、声をあげながら少しずつ前に進もうとする姿、手作りのパンケーキを口いっぱいにはおぼる姿など、我が子の成長した姿や可愛い瞬間を妻と共有できたことが、育休を取ってよかったなと感じる点です。

これから、育休を取られる先生方には、心や時間に余裕があり、育児にだけ集中できる環境は育休の瞬間しかないなので、全力で子育てを楽しんで欲しいです。

2人目の育休ということで、長女の授乳等もありながらも、お互いに長男との時間を多くとれたことがよかったと思います。また、家族4人そろって出かけたりすることも多くでき、子どもと様々な経験・体験ができました。特に遠方へ出かけたり、妻の実家へ帰省をしたりといった普段ではなかなか時間を取ることが難しいことをできたことはうれしかったです。子どもたちにとってもかけがえのない育休期間でした。職場への復帰後も、取得前よりスムーズに家事育児ができていると感じています。

取得を悩まれている方にもぜひ、家族の時間をゆっくりと過ごしてほしいと思います。

「人生100年時代において育休を長期で取得することの方がその後の人生にプラスになる」、「6歳までの幼少期をどう過ごすかで、その子の人生は大きく変わるので子供の経験に投資する」という言葉が印象に残っています。

取得したからこそできた経験としては、長男と次男（抱っこ紐）の3人で幼稚園（片道7キロ）まで歩いたこと、長男と二人で異国の地を旅したことです。

取得して良かったと思うことは、人生観・子育て観が大きく変化したことで多様な生徒に対する対応力がさらにレベルアップできたことです。

育休中は第1子である長男の保育園への送り迎えや子どもとお風呂や料理などをしました。育休を取得したからこそ、子どもの成長を近くで感じる事ができ、とてもうれしさを感じました。結果的に長男との時間が増えたことも取得してよかったなと思う事の1つです。1か月しか取得しませんが、もっと取得したいと思えるような素晴らしい機会になりました。

また、育休を取得したことで、普段の妻の大変さを感じる事ができ、改めて妻への感謝の気持ちが出てきました。

子供と過ごす時間が取れたことや家族でお出かけすることができて良かったです。また、夫婦でこれからのことをゆっくり話すこともできたので、育児休業を取得して良かったです。

子供の成長を夫婦で共有しながら、子育てができるのはとても貴重な時間でした。仕事も大切だとは思いますが、子供や奥さんと過ごす時間も大切だと思うので、ぜひ育児休業を取得してみてください。



育児をしながら、家事や復帰の準備等を行うにあたり、時間やゴールを逆算することを、より意識して行動することを学びました。また、自治体の主催する育児の講習会に参加したり、散歩等で自分達の住む地域のことを学んだり、お菓子を作ったりする等、家族で学べる、楽しむことを経験できました。

私自身、育児休業を経験して、支えてくれる周囲の人たちへの感謝の気持ち、「家族みんなで頑張ろう」と、団結する気持ちが強くなったと実感しました。ぜひ育児休業を経験して、実りある家族との時間をお過ごしください。

育児休業を取得して良かったことは、2つあります。1つ目は、妻の育児への負担を軽減できたことです。やはり、生後間もない赤ちゃんの体調管理には、かなり神経を使いましたし、夜泣きもなかなか大変でした。しかし、夫婦で協力しながら育児ができたことで乗り切ることができました。

2つ目は、子どもの成長を身近で見ることができたことです。寝返りができたと思ったら、すぐに、はいはいやつかまり立ちまでできるようになり、赤ちゃんの成長の速さに驚きつつも大変うれしく思いました。

昨今の講師不足の中で、育児休業を取ることは周りの先生方に迷惑をかけたり後ろめたさを感じたりすると思いますが、我が子と一緒に過ごせる限られた時間を考えれば、男性教諭の育児休業の取得を前向きに考えてもいいのではないかと思います。

育児休業中には育児や家族のことに一定期間集中できるため、仕事しながらではできなかったことができました。育児グッズや大きい物の買い出し、遠方のお互いの両親にも会いに行くことができました。

育児休業を通して、今一度自分の仕事や生活の在り方について見直すなど、自分自身を見つめなおす時間にもなったと思います。



■ 育児休業を取得したことについて、配偶者はどう思っている？

初めての育児で悩むことがたくさんありましたが、2人で協力しながら育児をすることができて本当に助かりました。夫がいたので、夜間授乳で寝不足のときは、昼間に寝かせてもらったり、家事をしてもらったりしたことで、心に余裕をもてて楽しく育児をすることができました。今しかない我が子の成長を2人で見守ることができて、かけがえのない時間を過ごせてよかったです。

ワンオペ育児の時には考える余裕もなく、日々赤ちゃんの世話を追われていましたが、育児休業を取ってもらってからは、育児を楽しむ余裕ができるようになりました。特に、生後間もない時に赤ちゃんが病気で通院をした際には、傍にいてもらって心強かったです。

妻は育休を取得しようと考えていると相談するととても喜んでくれました。第1子のときは部活で夜も遅いし、土日もないときも多く子どもとの時間をあまり取ることができませんでした。そういったこともあったので妻も賛成してくれました。

出産後、実家や親戚に頼れない状況の中、主人が育休を取ってくれたことは、私たち家族にとって本当に大きな支えでした。母乳以外のお世話は完璧で、頼れる存在でした。

今はパパっ子になりそうでヒヤヒヤしていますが、また出産したいと思ったのも、主人が育休をいただいたおかげです。ありがとうございました。

まず、当たり前ですが育児休暇を取ってくれたことが嬉しかったです。乳児の育児をしながら生活していく中では、家事の分担などを明確にしておいた方がお互いのストレスも軽減されたかと思います。ただ、昼夜問わず大変な育児と一緒にできたこと、子どもの成長と一緒に見守れたこと、その時にしかない瞬間を共有できたこと等、とても貴重な時間を過ごせたと思います。

夫が育休を取ってくれたことで、身体的にも精神的にも余裕がもてて、大変助かりました。家事・育児を手伝ってもらえることで、産後の身体を少しでも休めることができたと思いますし、小さな命を守っていく責任感や子どものちょっとした変化も不安に思う中で一緒に居てもらえることは、一人じゃない安心感にも繋がったように思います。

また、少しの時間でも一緒に子どもの成長を見守りながら、親子の時間をゆっくり過ごせて嬉しかったです。

まだまだ手のかかる2人の子どもがいるため、育休を取ってくれたことは本当に救いでした。家事や子どもの世話を積極的に行ってくれたので、安心して育児に専念できました。

「もっと長く取ってくれてもよかったな」と思うくらい、1ヶ月の育休は私にとってかけがえのない支えでした。



子育てを一緒にしてもらえるだけではなく、普段できないゆっくり会話をしたり、ご飯を一緒に食べたりすることで穏やかに過ごすことができました。

第一子の育児であったため、初めてのことも多く、特に産まれてから間もない頃は不安でした。夫婦で相談しながら育児ができ安心して過ごせたこと、ストレスを一人でためてしまうことが少なくなったため、娘にとってもいい影響があったと思います。

第二子が小さく生まれ、明日がどうなるか分からない状態で通院が多く、夫には仕事を休んで病院に付き添ってもらっていました。職場の迷惑にならないように長期の育休をとる決断をした夫。病院に夫が付き添ってくれるだけで私は心強かったです。また長男の成長にもプラスでしかなかったと思います。部活ばかりだった夫が地域の運動会やお祭りに地域の一員として参加できたことも良かったと感じています。私たち家族にとって本当に貴重な時間を過ごさせてもらいました。本当にありがとうございました。男性の育休が理解され広まっていくことを願っています。

1年育休を取ると夫から聞いた時は、正直、夫婦喧嘩が増えるのでは…と心配していました。しかし実際には、育児の楽しい部分も難しい部分も2人で共有することができ、子育てに対する意見の食い違いも擦り合わせていけたので、夫にも育休をとってもらって良かったです。産後の体調不良が長く続いていたので、夫が家事をほぼ担ってくれたのは助かりました。また、妹の誕生とイヤイヤ期が重なった上の子に、2人でじっくり向き合えたのも良かったと思います。夫婦一緒に長期間の育休を取る例はあまりないかと思いますが、双方の職場のご理解・ご協力のおかげで充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。



高知県では、教職員の子育てを支援するために、様々な休暇や休業の制度を設けています。子どもが生まれる女性教職員だけでなく、父親になった（なる予定の）男性教職員も、こうした制度等を活用しながら、積極的に子育てを担い、親子の時間を大切にしましょう。また、教職員が安心してこれらの制度を利用するためには、管理職や周りの教職員の理解と協力が欠かせません。教職員の皆さんが、こうした制度を理解し、子育て世代の教職員が安心して子どもを生み育てられる職場環境づくりに取り組んでいきましょう。

これまでの「男性教職員の育児休業体験談」を教職員・福利課のHPに載せています。ぜひ、ご覧ください。

【これまでの男性教職員の育児休業体験談はこちら→】

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2022051600174/>



発行：高知県教育委員会事務局教職員・福利課

〒780-0850 高知市丸ノ内1-7-52

TEL：088-821-4901

E-Mail：310601@ken.pref.kochi.lg.jp